

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	日々の生活を維持できるように支援している。個人個人に合わせた支援も行えている。	理念は、利用者の「自分らしさ」を尊重した、希望ある生きる力に添うことが掲げられていました。常に職員が意識できる様、玄関に掲示されて訪問者にも周知されていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	夏祭りなどに地域の方をお呼びしている。	諏訪形地区の文化祭に利用者の作品を展示していました。近くにゴルフ場跡地があり、地域の方との交流が検討されていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	特に現在は行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	ご利用者様も会議に参加して頂き、意見などを出しやすい場を提供するとともに、不満点や改善点がある時は、その方法を検討している。	運営推進会議はそれぞれの関係者が関わりサービスの質の向上のために行われる予定でしたが、コロナ禍で思うような会議が開催できなかったため、文書等で取り組みについて周知されていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協係を築くよう取り組んでいる。	運営会議に参加して頂いている。また疑問点がある場合は、相談させて頂いている。	運営会議には、介護保険課を始め地域包括センターや近隣地区、三地区の民生委員、自治会長、家族、利用者、ケアマネ等の参加があり、利用者の生活向上を計画されています。コロナ禍のため今年度は実施されていません。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関等は夜間の犯罪防止のため施錠させて頂いている。日中は解錠しており、気分転換に外でのレク等を楽しんで頂いている。	拘束の研修も行われ、「拘束はしない」ことを基本に支援されていました。不安のある方には、二人体制で関わり、職員の押しつけがないうケアを行っていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に関する勉強会を行ったり、全員で協力する体制が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在成年後見制度を利用している方がおり、都度連絡を取り合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	新規契約の際に十分な説明を行い、毎月の報告において疑問点などが無いかを尋ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情受付に関して契約の際に十分お伝えしている。また介護計画に反映する事項は関係者との話し合いをもって反映させて頂いている。	玄関に意見箱が設置され、利用者、家族からの意見を受け入れ反映されていました。入所契約時に県や法人の苦情・相談対応窓口をお知らせし、対応した結果の公表の取り組みもされていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員が自由な発想で意見、提案が出来るように努めている。	職員は意見を出しやすく、職員間の連絡ノートも活用され、書かれた意見は運営に反映されるきっかけにもなっていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員個人個人の個性を尊重し、アドバイスに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修会への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	月に3回の挨拶回りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	家族や御本人と面談し、不安や要望を把握するようにしている。そのうえで支援方針の決定を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	いつでも不安や要望などを聞ける体制を作り、その情報を職員全員で共有する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、ご家族の意見を尊重し、そのうえでサービスの方向性を示し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活の中で、本人と職員で相談できる雰囲気作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月お手紙で本人の様子をお伝えしている。また、冬物夏物の衣類などをご家族にお願いし、関係性を築いていく様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	可能な限り、外食や面会を出来るように努めている。また職員から家族や昔の事等の話を振り、思い出して頂くように心がけている。	地域で花見やイベント見学を計画されていました。社会福祉協議会からのボランティア等も受け入れていましたが、コロナ禍の為交流はされていません。コロナ禍でもできることを探りながら支援されていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個人個人の特徴を尊重し、そのうえで席順を決めている。また職員が間に入り話が出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後でも、ご家族や知人に同じ様な方がいた場合に連絡して頂けるように声を掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話の中や運営推進会議等で出た個人の希望を全員に周知し、行えるように努めている。(散歩やお米作り等)	介護計画が作成され、個々の生活に対する意向が示されており、職員に周知し支援されていました。農業や家庭菜園に関わっていた方が多く、発砲スチールの田んぼや畑で野菜を作り楽しまれていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	知り得た情報をいつでも閲覧できるようにし情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	行動を記録に残し、変化の際には送りに記入し、現状を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネージャーを中心に会議の際に議題を設け解決に努めている。	介護計画は、個々の意向や健康状況、生き甲斐等が盛り込まれ、ケアマネージャーを中心に計画されていました。特に医療的な服薬について検討・見直しが行われ体調の改善に繋がっていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、時系列に沿って記録するようにしている。そのうえで介護計画の見直しなどに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者やご家族の立場にたち、ニーズに素早く対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議に参加することによって、地域社会に参加して出来ている事を実感できるよう努めていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所前からのかかりつけ医に受診している。受診の際には家族に付き添って頂いている。	在宅時からの医療を継続しているが、認知症の支援に必要な医療も検討され、症状の改善につなげていました。家族の協力や理解も得られ利用者の不安の解消にもつながっていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	目に見える変化は施設内の看護師に相談し、家族等に連絡をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には、個人情報・バイタル・排泄水分量、食事形態、摂取の記録の複製を病院に提供している。また入院中の情報を頂き、退院後の生活の組み立てを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時に看取りが出来ない事を説明している。またケアマネージャーから特養などの情報を家族に提供している。	入所時看取りが行われていないことを、家族等に理解していただき、重度化や終末期には医療と連携を図ることで、不安のない支援を行っていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	連絡網や事故のマニュアルを用意している。また、毎年全職員が救命救急やAEDの使い方を勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に避難訓練を行っている。自治会には緊急時に公民館の開放をお願いしたいと考えているとともに、去年の様な台風が来た際に備えての話を市に伺いたいと考えている。	災害時の訓練は行われていますが、夜間等職員体制の希薄時の地域協力のために、所在地自治会や市に協力をお願いし、利用者の安全確保に努めていました。	施設は土砂災害警戒区域になっていますので、行政、地区から安全対策、避難の協力体制を得て、更なる安全安心の提供をお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉掛けの勉強会を開催したいと思っている。	介護計画は個々を尊重して支援する計画になっていました、できることは行っていただき以前できたことも確認できる計画になっていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人が自分の思いを遠慮なく希望出来る環境づくりを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	集団生活を守っては頂くが、個人個人の性格や体調に沿って日々の暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人や家族の希望に沿って、定期的に美容師に訪問して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節の食事や、行事食・食べたい物等を取り入れている。またレクと一緒に食事作りを行ったり、食器洗いなどを手伝ってもらっている。	普通食は食べやすい一口大で提供していました。食材は取り寄せ、利用者と調理や後片付けの食器洗いなど、できることに関わりを持っていました。メニューは豊富で行事食等希望を聞きながら楽しめていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎月の体重測定の結果で、食事量を変更したり、水分表で水分量の確認を行い、声掛け等に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアの促しを行っている。個人のレベルに合わせ介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄表をつけ、時間やタイミングを全員が周知し、声掛けを行っている。	利用開始時ハビリパンツを使用していたが、布パンツに変えられた方、またポータブルトイレから自力でトイレに行けるようになった方もおり、排泄の自立に努めていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	運動を行い、ヨーグルトの摂取やご飯にもち麦や寒天を入れて食物繊維の摂取を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	曜日で入浴を決めているが、個人の希望にも沿えるようにしている。またプライバシーに配慮し、同性が介助に入れるように努めている。	週2回の利用が行われていました。どうしてもなじめなかったり、機械浴が必要時にはデイサービスの浴室を利用するなど法人内で協力されていました。同性介護を基本に、できない時は本人に確認をして行っていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	季節や気候に応じて温度管理を行い、毛布が足りないようならご家族に持ってきていただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤書をいつでも閲覧できる所に保管し、また薬用のノートを作り、薬の変更などを周知できるように心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	朝の掃除を手伝ってもらったり、個人のレベルに合わせたレクの提供に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	墓参りや買い物等家族の支援のもと行っている。GHでも外食や外出に行けるよう努めている。	受診等は家族と行っていますが、コロナ禍のため食事や買い物などは人混みを避けて行っていました。近くでの花見なども人混みを避けて行っていました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	当施設の規定により、金銭は家人の管理となっているが、必要に応じ家人より預かり本人が払えるように支援を行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話を希望された際は職員が掛け、話をしていただく。手紙のやり取りは自由に行って頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	窓を開けはらい、自然の風を取り入れたり、都度カーテンで日光を調節している。	外出が少なくなっているため、個々の希望する居心地の良い空間を提供できるよう利用者と確認されていました。温かみのある居室にさわやかな自然を取り入れているようでした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	外を眺められる場所にソファを設置し、談笑できる空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の使い慣れた物や馴染みの物を好きに持って来て頂いている。	居室はコロナ禍で確認できませんでしたが、今まで使っていたなじみの物を置いて、施設の中で今までの生活に近い環境で過ごせる様支援されていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々の状況を全員が周知し、転倒リスクなどが無いように心がけている。		